

分布調査報告書(8)

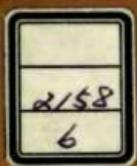
東北横断自動車道酒田線関係遺跡
 国道7号線吹浦バイパス関係遺跡
 昭和56年度農林事業他関係遺跡



1981

山形県教育委員会

調査課



教育厅文化課

2158

分布調査報告書(8)

東北横断自動車道酒田線関係遺跡
国道7号線吹浦バイパス関係遺跡
昭和56年度農林事業他関係遺跡

昭和56年3月

序

本報告書は、昭和55年度に実施した、東北横断自動車仙台・寒河江線関沢・山形東間・国道7号線吹浦バイパス・および農林事業関係等に関する埋蔵文化財包蔵地詳細分布調査の結果をまとめたものであります。

東北横断自動車道は、太平洋沿岸の各都市をはじめ、関東地方経済圏との交流を促す本県初の本格的ハイウェイであり、山形の産業・経済・文化の振興に果す役割は大いに期待されるところであります。同様に、日本海沿岸を走る国道7号線吹浦バイパスの建設は庄内地域の長らくの懸案であり、文字通り日本海時代の大動脈として東北横断自動車道の建設と共にそのおよばず役割は大なるものと考えます。

一方、本県の産業の基盤であるところの農林事業や道路河川改修等の各種開発事業は、県民の生活基盤の整備や福祉の向上を目的とし、21世紀の豊かな県土造りを鋭意進めているところであります。

しかしながら、その反面においては、大規模で広域に亘る開発事業と地下に埋もれた埋蔵文化財との係わりも増加することとなり、県民福祉の向上を目的とする諸開発事業と、県民、ひいては国民の遺産たる埋蔵文化財の保護行政との間には、数多くの問題をかかえています。県教育委員会におきましては「心広くたくましい県民の育成」と地域環境づくりという立場から、これらの間の調整をはかり、今後とも埋蔵文化財の保護のために努力を続けてまいる所存であります。

最後ではありますが、本調査にご協力をいただいた関係各位並びに地元の方々に感謝申し上げると共に、本書が埋蔵文化財に対するおおかたの理解の一助となれば幸いです。

昭和56年3月

山形県教育委員会
教育長 大竹 正治

例　　言

- 1 本報告書は、昭和55年に国庫補助を得て実施した東北横断自動車道酒田線、国道7号線吹浦バイパス、農林事業他に関する遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 調査は、山形県教育庁文化課の佐藤庄一・佐藤正俊・渋谷孝雄・中嶋寛・阿部明彦・長橋至、庄内教育事務所埋蔵文化財調査室の川崎利夫・野尻侃・安部実の9名がそれぞれ分担した。
- 3 本報告書の執筆は、川崎利夫・野尻侃・安部実・佐藤正俊・渋谷孝雄・阿部明彦が分担し、取りまとめを阿部明彦が行った。
- 4 本報告書の編集は、名和達朗・阿部明彦が担当し、全体については佐々木洋治が総括した。
- 5 遺跡詳細分布調査の対象となった遺跡は、東北横断自動車道酒田線・国道7号線吹浦バイパス・農林事業の三つに区分でき、それぞれを関連事業別の一覧表として第II章に示した。そのうちの主たる遺跡については、第III章で概略を記した。
- 6 調査にあたっては、山形市教育委員会社会教育課江川隆氏、同東沢公民館事務局長佐藤正一氏、遊佐町文化財保護審議委員村上孝之助氏はじめ、関係各位のご協力を得た。記して感謝申し上げる。

目　　次

I 調査の経緯	1	2 墓 窟 遺 踪	15
1 調査に至るまで	1	3 三本木窯遺跡	17
2 調査の経過	1	4 境田 C 遺 踪	19
II 昭和56年度事業関係遺跡地名表	2	5 北 田 遺 踪	21
1 国道7号線吹浦バイパス	2	6 安 田 遺 踪	23
2 東北横断自動車道酒田線	4	7 豊 原 B 遺 踪	25
3 農林事業関係他	6	8 角 沢 仁 間 遺 踪	27
III 試掘調査実施遺跡概要	13	9 宮 野 遺 踪	30
1 大 下 遺 踪	13	IV ま と め	33

挿図目次

第1図 国道7号線吹浦バイパス関係遺跡位置図	10
第2図 東北横断自動車道関係遺跡位置図	12
第3図 大下遺跡概要図	13
第4図 墓窓遺跡概要図	15
第5図 三本木窯遺跡概要図	17
第6図 境田C遺跡概要図	20
第7図 北田遺跡概要図	21
第8図 安田遺跡概要図	23
第9図 豊原B遺跡概要図	25
第10図 角沢仁間遺跡概要図	27
第11図 角沢仁間遺跡遺構平面図・土層断面図	28
第12図 宮野遺跡位置図・遺構平面図	31

図版目次

図版1 大下遺跡	14
図版2 墓窓遺跡	16
図版3 三本木窯遺跡	18
図版4 境田C遺跡	19
図版5 北田遺跡	22
図版6 安田遺跡	24
図版7 豊原B遺跡	26
図版8 角沢仁間遺跡	29
図版9 3号土壤出土浅鉢形土器	30
図版10 宮野遺跡	32

I 調査の経緯

1 調査に至るまで

県教育委員会では、各種開発計画等と調整を計りながら遺跡の保存を図る目的で、開発実施予定地域についての遺跡詳細分布調査を毎年行っている。特に昭和56年度開発実施予定地域については、東北横断自動車道酒田線、吹浦バイパス、農林事業他を含めて、「昭和56年度埋蔵文化財包蔵地にかかる各種事業計画に関する照会」を行い、関係機関との事前協議を昭和55年6月、同9月に実施し、協議に基いて昭和55年7月7日～11月28日まで遺跡詳細分布調査を実施した。従来は、主たる事業別に分布調査を行っていたが、今年度は各種開発事業を一括して分布調査計画を作成し、実施に当っては国の補助を得た。

2 調査の経過

遺跡の詳細分布調査は、県教育委員会が主体となり、関係市町村教育委員会・関係各開発機関などの協力を得て実施した。調査の日程は表-1の通りである。調査対象は、

(1) 東北横断自動車道酒田線（山形市関沢～駅瀬）、(2) 国道7号線吹浦バイパス（遊佐町松山～女鹿）(3) 県内農業基盤整備事業等（庄内統合パイロット事業区、県営ほ場整備事業区、団体営ほ場整備事業区）、(4) その他（県道改良事業区、河川改修事業区、学校施設事業区）で、関連する遺跡総数は90箇所に及ぶ。

調査は、その方法上、以下の三段階に分けて行った。

(1) 第Ⅰ段階—事業地区内およびそれに接する周知遺跡の現地確認を行い、遺跡の所在位置と事業計画区域との関連を明確にする。

(2) 第Ⅱ段階—遺跡の表面調査、および坪掘りを行って遺跡の範囲性格を明確にする。

(3) 第Ⅲ段階—事業地区にある主たる遺跡について、必要に応じ一部重機等も用いて拡張調査を実施する。

調査の結果、各事業対象地域に計90の遺跡が確認され、うち32の遺跡が新規発見の遺跡である。

対象事業	期日	7月	8月	9月	10月	11月	12月～56年3月
		8/1					資料整理 報告書作成
東北横断道							
吹浦バイパス			9/17	10/3			
農業基盤整備事業 (その他)				分布調査I 10/6	10/17		
				分布調査II 10/20	11/1	11/19	
				分布調査III 11/1	11/28		

II 昭和56年度事業関係遺跡地名表

1 国道7号線吹浦バイパス

遺跡番号	種 別	遺 跡 名	所 在 地	時 期	地 目	立 地
1	集落跡	吹 浦	佐佐町吹浦字室屋39~108番地 他	萬文時代 平安時代	畠 地	段丘 段丘上斜面 (5m)
2	散布地	小 谷 地	佐佐町吹浦字小谷地12、13番地	萬文時代 平安時代	畠 地	台 地 (8m)
3	散布地	物 見 岬 A	佐佐町吹浦字物見岬80、82、93~1 林ノ内1番地	萬文時代 平安時代	宅 地	山 蔦 (15m)
4	散布地	物 見 岬 B	佐佐町吹浦字物見岬42、43、70、73、 75~77番地 佐佐町吹浦字内11、14、15、22番地	萬文時代 平安時代	畠 地	丘 陵 (15m)
5	散布地	林 之 内	佐佐町吹浦字林ノ内	平安時代	畠 地	山 林 (42m)
6	散布地	大 黒 板	佐佐町吹浦字大黒坂道西14~17、 29~32、45、48~67番地	萬文時代	畠 地	山 蔦 (40m)
7	散布地	ム ジ ナ 堂	佐佐町吹浦字ムジナ堂31、32番地	萬文時代 平安時代	畠 地 宅 地 山 林	山 蔦 (73m)
8	散布地	小 屋 林 道 東	佐佐町吹浦字小屋林道東23~26番地	萬文時代	山 林	山 蔦 (65m)
9	散布地	小 長 板	佐佐町吹浦字小長坂、布倉	萬文時代	畠 地	山 蔦 (30m)
10	散布地	小 屋 林 道 西	佐佐町吹浦字小屋林道西 佐佐町吹浦字内林 佐佐町吹浦字戸ノ内田	萬文時代 平安時代	畠 地	山 蔦 (68m)
11	散布地	戸 の 内 田	佐佐町戸の内田字13~21、13~22、 13~20、13~19、21~6、21~2番地 他	萬文時代 平安時代	畠 地	山 蔦 (62m)
12	寺院跡	神 宫 寺	佐佐町吹浦字	江戸時代 (以前)	宅 地	山 蔦 (8m)
13	散布地	南 光 油 板	佐佐町吹浦字西瀬	萬文時代	山 林	台 地 (25m)
14	散布地	益 磨	佐佐町吹浦字西瀬	萬文時代	宅 地	台 地 (2m)
15	散布地	湯 之 田 山	佐佐町吹浦字湯豆佐山	萬文時代	山 林	山 蔦 (50m)
16	散布地	谷 地 の 子	佐佐町吹浦字谷地の子21~28番地	平安時代 後	畠 地	山 蔦 (25m)
17	散布地	上 長 横	佐佐町吹浦字上横根44、45、53、54、 55番地、他	平安時代	畠 地	段 丘 (40m)
18	散布地	水 之 田	佐佐町吹浦字之上17、55、37番地 (他) 中長根1~5、21番地より西側	萬文時代 平安時代	畠 地	段 丘 (30m)
19	散布地	弥 陀 之 上	佐佐町吹浦字弥陀之上21、22番地	萬文時代	畠 地	段 丘 (31m)

遺 蹟 級 要	出 土 遺 物	備 考
台地一帯に遺物が分布する。 台地中程では須恵器、赤焼き土器が多く採集できる。	縄文土器 石器 須恵器 赤焼き土器	No2208~2210 県指定史跡
谷を二つ隔てて、牧道道路に隣接する。現況の畑から採集できるのは主として赤焼き土器が多い。	赤焼き土器 縄文土器	No2212
遺跡の北半分に住宅が複数新築され、南側の上面は重機で整地されている。	(S48庄内スーパー分布)縄文土器、土器、須恵器	No2211
遺跡北側の畑に遺物が散在するが、立地的には南に広がると予測できる。	縄文土器 赤焼き土器	新規
40cm前面で地山に溝があるが顯著な遺物包含層は見当たらない。遺物も現在ではほとんど採集できない。	今次採集遺物なし 須恵器片 1 (昭和48年庄内スーパー分布)	No2213
少ない遺物が地点を変えて散在する。 30cm下面で地山に達し、顯著な遺物包含層はない。	縄文土器片... 削片	No2203
遺跡の近くに湧水があり立地的には良い。遺物の數量は比較的少い。	今次採集物なし (S48庄内スーパー) 縄文土器片、須恵器片	No2207
南西に張り出す山麓台地に立地。現況は山林で遺物は採集できない。	今次採集遺物なし (S48庄内スーパー) 縄文土器片	No2205
段々となる砂地の傾き谷をはさんで広がるが、遺物の採集は現在ほとんどできない。	今次採集遺物なし 以前石鐵等出土したといわれる。	No2201
戦前、中と柱であった所が現在は、ほとんど山林になり一部分残っている。遺物はまばらにしか採集できない。	縄文土器片(以前赤焼き土器、須恵器等も出土したという。) 赤焼き土器 縄文土器	No2204
遺物は畑面にやや多く分布し、60cm下面で池山に達する。遺物包含層は約30cmほどあり、保存も良好である。	赤焼き土器 縄文土器	新規
寺院跡地はそのまま宅地として利用されており、寺に隣接する特別な遺構等はない。	な し	No2206
遺跡は崖面を切り崩して道を造った時に発見され。現在は坂道となっている。	道路工事の際、土器片等が出土したという。	No2199
海に向って張り出す小さな台地上に立地。現在は道路、空地等のため遺物の採集はできない。	道路工事の際、土器片等が出土したという。	No2200
西に向って張り出す山麓台地上に立地。現在は松の植林のため遺物は採集できない。	今次なし。(開墾時に石鉄、磨製石斧縄文土器が多数出土。)	No2202
谷間の畑に位置し、遺跡の西側で多くの遺物が採集できる。	赤焼き土器片	新規
やや標高の高い谷間の畑に位置し、現況は段々と高くなる数段の畑である。	須恵器片 赤焼き土器片	新規
日本海に向って張り出す南北に長い台地上に立地。	石器 縄文土器片 赤焼き土器	新規
小高い丘陵の頂部付近一帯が遺跡となっているが、一部上面が削平されて地山ロームが露出している。	石鉄 1点	新規

2 東北横断自動車道酒田線

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	時期	地目	立地
1	散布地	関沢 A	山形市大字関沢	興文時代 平安時代	畠地	扇状地 (530m)
2	散布地	関沢 B	山形市大字関沢	繩文時代 (年、毛剛) 平安時代	死地	扇状地 (588m)
3	散布地	関沢 C	山形市大字関沢	興文時代	畠地	扇状地 (367m)
4	散布地	大谷沢 A	山形市大字関沢大谷沢	興文時代 (年、毛剛) 平安時代	畠地	扇状地 (545m)
5	散布地	大谷沢 B	山形市大字関沢大谷沢	興文時代 平安時代	畠地 桑畠	扇状地 (512m)
6	散布地	休石	山形市大字関沢休石	興文時代 (晩期) 平安時代	畠地	扇状地 (307m)
7	散布地	宇津野原	山形市大字新山字津野原	興文時代 (中期)	畠地 杉畠桑畠	扇状地 (479m)
8	散布地	新山 A	山形市大字新山	興文時代 平安時代 江戸時代	畠地	河岸段丘 (398m)
9	散布地	新山 B	山形市大字新山	繩文時代 平安時代	荒地 畠地 桑畠	扇状地 (422m)
10	散布地	新山 C	山形市大字新山	平安時代	畠地	河岸段丘 (357m)
11	散布地	新山 D	山形市大字新山	興文時代 (晩期) 平安時代	畠地 水田 桑畠	扇状地 (357m)
12	散布地	滑川 A	山形市大字瀬川	興文時代	畠地	河岸段丘 (358m)
13	散布地	滑川 B	山形市大字瀬川	平安時代	畠地 水田 宅地	扇状地 (284m)
14	散布地	滑川 C	山形市大字瀬川	興文時代	畠地 水田 木里	河岸段地 (305m)
15	散布地	滑川 D	山形市大字瀬川	興文時代	畠地 水田 木里	扇状地 (301m)
16	散布地	尺ノ上	山形市大字瀬川	興文時代	畠地 水田 宅地	扇状地 (295m)
17	散布地	ひどろ A	山形市大字瀬川	興文時代 平安時代	水田	河岸段丘 (270m)
18	散布地	ひどろ B	山形市大字瀬川	興文時代	畠地 桑畠	扇状地 (276m)
19	散布地	境谷沢	山形市大字観音堂	平安時代	桑畠	扇状地 (274m)
20	散布地	下宝沢	山形市大字下宝沢	興文時代 (後葉、毛剛)	畠地 果樹	河岸段丘 (355m)

遺跡概要	出土遺物	備考
遺跡のうち国道286号の改良工事のため破壊された畠地と宅地に散在している。	縄文土器片 土師器 削片	新規
国道286号の改良工事により若干破壊をうけている。	縄文土器 土師器	新規
天地返しが大部分で遺物包含層は見つかっていない。現在は畠地と宅地になっている。	削片	新規
畠地、桑畠となっており遺物包含層は良好に残っている。	縄文土器片、石器、削片 土師器片	新規
畠地、桑畠となっており遺物包含層は良好に残っている。	縄文土器 土師器 削片	新規
河岸段丘上に畠地となっている。遺物包含層は良好に残っている。	縄文土器 土師器	新規
畠地、杉苗圃、野菜畠となっている。遺物包含層は良好に残っている。	縄文土器 土師器 削片	新規
広範囲に分布。現況は畠地、荒地となっている。遺跡の中心部は国道286号の改良工事で破壊されている。	縄文土器 土師器 削片	新規
滑川の河岸段丘上に立地し、国道286号の北側の畠地に若干の遺物の散布がみられる。	土師器	新規
滑川左岸段丘上に立地している。現況は畠地になってしまっており遺物の散布がみられる。	土師器	新規
畠地、水田、桑畠となっており、遺物包含層は良好に残っている。	縄文土器片 土師器	新規
畠地、荒地となっているが、遺物包含層は確認できない。	縄文土器片 削片	新規
畠地、果樹畠となっているが、地山まで10~15cmで遺物包含層は確認されない。	土師器	新規
畠地、水田、果樹畠で、遺物包含層は一部分で残されている。	縄文土器片 削片	新規
南側の畠地一帯に、石器、フレイクの散布がみられる。土器片の採集は行なわれなかった。	石器 石器 石器 削片	新規
畠地、桑畠、一部水田、宅地にひろがり、北側の畠地に散布がみられる。	縄文土器片、石器 二次加工のある削片 削片	No. 41
水田、畠地、北西部の畠地に散布、遺物包含層は一部分にしか残されていない。	削片 土師器片	新規
畠地、一部水田に散布し、地山まで15cm~20cmである。	縄文土器片	新規
桑畠。草がおいしげているため、遺物は確認できなかったが、以前に山形大学生が須恵器片を確認している。		新規
畠地、果樹畠。南側の畠地一帯に散布している。	縄文土器片 削片	No. 42

遺跡番号	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	地 目	立 地
21	散布地	松 留	山形市大字上宝沢字松留	萬文時代 〔中崩〕	宅 地 烟 地 果 樹	南側丘 (35m)
22	集落跡	向 山	山形市大字上宝沢	萬文時代 〔中崩〕	稻 地 烟 地	南側丘 (36m)
23	遺 物	境 田 C	山形市長町字境田	平安時代	稻 烟 地	小台地

3 農林事業関係地

遺跡番号	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	地 目	立 地
1	散布地	八 幡 堂	米沢市森森宇八幡堂310 米沢市森森宇大門436～445	萬文時代 古墳時代	水 田 烟 地	平 地 (28m)
2	集落跡	笠 原	米沢市霞田町字中田笠原	奈良時代 平安時代	荒 地	自然堤防面 (22m)
3	包含地	沼 之 丘	飯豊町大字椿字沼之丘	萬文時代	水 田 道 路	小丘陵 (34m)
4	散布地	町 附 下	飯豊町大字松原字町下570, 572, 577, 580	萬文時代 〔後 崩〕 飛鳥、昭和	烟 地 水 田	段 丘 (20m)
5	散布地	堰 場	飯豊町大字松原字堰場458～2	萬文時代 〔後 崩〕	水 田	段 丘 (20m)
6	集落跡	野 山 V	飯豊町大字小白川字野山	古墳時代 萬文時代 〔早 崩〕	稻 地 烟 地	段 丘 (50m)
7	集落跡	大 附 下	小国町大字増岡字下357他 小国町大字増岡字高立401他	萬文時代 〔中 崩〕	烟 地 林 —	段 丘 (40m)
8	集落跡	墓 座	小国町大字増岡字墓座177他 小国町大字増岡字二沢177他 小国町大字増岡字二野124他	萬文時代 〔中 崩〕	水 田 稻 地 林木	段 丘 (50m)
9	散布地	計 面 分	小国町大字増岡字面分103, 105, 151、 154他	萬文時代 〔後 崩〕	稻 地 烟 地 —	段 丘 —
10	散布地	境 田 A	山形市長町字境田	平安時代	水 田 烟 地 荒 地	南側丘 —
11	散布地	七 潤	山形市大字七潤字牛が墓	平安時代 古墳時代	稻 地 樹 林 水 田	平 地 (104m)
12	古 墓	七 潤 古 墓	山形市大字七潤字牛が墓	古墳時代 〔後 崩〕	杉 林	平 地 (105m)
13	集落跡	三 本 木 蒜 蒜	山形市大字神尾	奈良時代 平安時代	稻 地 烟 地	丘陵上
14	包 藏 地	魂 I	中山町大字土櫛字魂	萬文時代 平安時代	稻 地 田 宅	平 地 (110m)
15	散布地	八 幡 前	中山町大字同字八幡244の1	平安時代	稻 地 烟 地	丘 陵 (30m)
16	散布地	望 山	大江町喜山字前夷	萬文時代 〔後 崩〕	稻 地 道 地	段 丘 (40m)

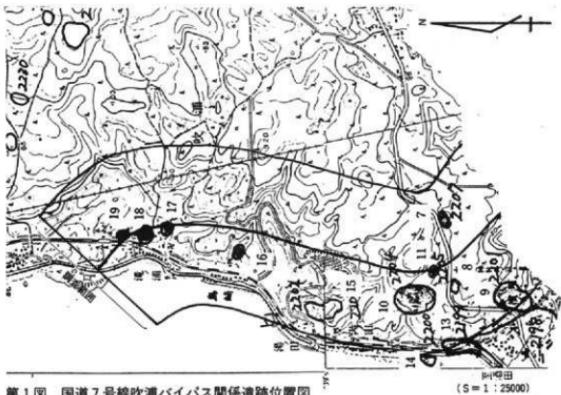
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
宅地・烟地・果樹地・遺跡の約3分2が宅地化となっており、若干の相場に遺物が散布している。	縄文土器片、石斧	No. 43
烟地・果樹地。遺物は、畑地一帯に散布している。	縄文土器片 刮削・碎片	No. 44
見崎渓水周囲の果樹園および桑園に位置、周囲の水田より一段高くなっているので、全面に遺物が分布する。	土師器 須恵器	No. 135
		試掘調査実施

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
昭和45年ため田工事の際に発見された。 範囲は東西160×南北140(m)の範囲が推定される。	縄文土器 石斧	米沢市教委の 分布調査 新規
自然堤防を中心に、広範に須恵器・土師器が散布している。	須恵器 土師器 中世陶器	米沢市教委の 分布調査
重機による開田のため大部分が大幅な削除されている。	縄文土器 石器 陶器	註 昭和51年県教委で一部調査
畑地の中央付近に遺物が散布している。畑地の東側には土塁が復元されているがその性については未だ明確である。	縄文土器 石器 陶片	No. 1511 試掘調査実施
昭和42年の引越水害で、復旧工事などで破壊された恐れがある。今次調査では遺物や包含層は確認できなかった。	過去に耳聾り等出土	No. 1510
遺跡の約3分2は段丘開闢により破壊されている。	石刃 縄文土器 石器	No. 1518
横川右岸の段丘上に位置する。畑地になってしまる所では大量の遺物が散在している。範囲は東西110×南北155(m)。	石器 石匕 土器片大木10a式 刮削	No. 1380 試掘調査実施 新規
横川右岸の段丘上に位置し、下下遺跡の東方に位置する。範囲は東西250×南北110(m)で、保存状態も良い。	石匕 刮削 白陶土質物（堅果類） 土器片大木 9、10式 刮削	試掘調査実施 新規
横川右岸の最北端高地に位置する。遺物は畑地に若干散布している。範囲は東西110×南北100(m)。		
河岸段丘上に位置し、水田との比較差1m程度である。遺物は段丘上の畑地の中で表揚できる。	土師器	No. 133
孤山古墳群東方の水田に立地。昭和36年の耕地整理時に土壌層が多量に出土している。		No. 141
七浦遺跡近くの水田に、小高い丘があり、その中に立地している。		No. 142
三本木沼の東方の畑地に位置している。試掘調査によって埋葬2基を新たに確認できた。	赤燒き土器 須恵器	No. 57 試掘調査実施
遺跡台跡は旧石器となっているが確認出来ず、しかし縄文・平安の遺物の包含層が認められた。	縄文土器、石器 土師器	No. 410 試掘調査実施
遺跡は、丘陵上の平地に位置するが八幡神社・宅地により一部破壊され、回りの畑地に、遺物が散布する。	土師器、須恵器	No. 416
月布原遺跡段丘上に位置している。中心地は、農業生産・通路・宅地により破壊。回りの畑地に遺物が散布する。	縄文式土器 片	No. 549

遺跡番号	種別	遺跡名	所 在 地	時 期	地 目	立 地
17	集落跡	うぐいす沢	寒河江市大学字中澤上ノ代434地	縄文時代 (中葉)	果樹地	段丘
18	集落跡	月 山 竜	河北町谷地字月山堂535	平安時代	水 田	平 地
19	散布地	葦 本	河北町岩木字岩木東936、939	縄文時代	水 田	晒地(121m)
20	集落跡	花 ノ 木	河北町吉田1226~1	縄文時代 (後期~後世)	果 樹	段 丘 (95m)
21	散布地	楓 音 寺 田 中	東根市觀音寺字高岡山	縄文時代	果 樹 高 岩 地	山 薩 (278m)
22	散布地	村 山 爰 高	村山市樋間北町一丁目3番1号	縄文時代	学 校 敷 地	自然斜坡 (100m)
23	散布地	中 村 A	村山市愚ノ沢字中村	縄文時代 (中葉)	水 田	山 薩 (116m)
24	散布地	宝 銀 寺	村山市大字大久保字宇町4487	縄文時代 (中葉)	堆 墓 地	段 丘 (100m)
25	城館跡	二 藤 袋 鎧	尾花沢市二藤袋	中 世	烟 地 ~茶園	段 丘 (129m)
26	散布地 (集落跡)	原 の 内 A	尾花沢市大字鶴子字原の内	縄文時代 (平成時代)	烟 地	段 丘 (241m)
27	散布地	八 画	尾花沢市大字鶴子字八画	縄文時代	烟 地	段 丘 (189m)
28	散布地	久 保	村山市大字大久保字久保	奈良時代 平安時代	堆 墓	段 丘 (130m)
29	散布地	西 潟	村山市大字大久保字西瀧958の5地	縄文時代 奈良時代 平安時代	水 田	段 丘 (107m)
30	集落跡	尋 国 北	尾花沢市牛廻野字尋国	縄文時代 (早 ~ 中葉)	烟	段 丘 (116m)
31	散布地	津 坊	尾花沢市大字牛廻野字田沢津坊	縄文時代	水 田	平 地 (123m)
32	散布地	坂 の 上	尾花沢市二藤袋字西原	縄文時代	烟 地	段 丘 (126m)
33	遺 物 包 蔽 地	角 沢 仁 間	新庄市角沢字仁間	縄文時代 ~ 後世時代	水 田	平 地
34	集落跡	乱 馬 堂	新庄市金沢字乱馬堂	古墳時代 ~ 南北朝	水 田	段 丘 (110m)
35	散布地	宮 野	新庄市本合字鶴鳴	縄文時代 後世時代	水 田	段 丘 (80m)
36	集落跡	砂 川 A	朝日村大字砂川字山崎69、112地	縄文時代 後世時代	水 田	段 丘 (100m)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
飛上川右岸の段丘上に位置する。範囲は、東西200m・南北250(m)である。 遺存深度は直線である。	縄文土器(大木9・10式) 剣片	No 439 昭和55年一部県教委の調査
遺跡は平原な水田面に位置し、遺物が広範に散布する。地勢下18~27(cm)で遺物包含層にあたる。	土師器 須恵器	No 446 試掘調査実施
遺跡南側の畑地に遺物が散布する。水田化された部分は大部分破壊されている。遺物の敷数は畑地に認められる。	剣片	No 447 試掘調査実施
最上川左岸の段丘上に位置し、畑地部分に多くの遺物が散布している。範囲は、東西110m×南北70(m)である。	縄文土器 石器 剣片	No 448 昭和35年に一部発掘。
アドカラを防護する間に縄文時代の石器が出土。現在は遺物包含層が削平されてしまふ残っていない。	石器	
村山農高の通用門から西側の畑地にかけて所在。現在は遺物の散布は認められない。		No 567
千手川左岸に位置する。一帯が水田のため表面での遺跡調査は不能である。	水田盤下げの原、大木8a~8b式土器の出土。	No 578
最上川左岸段丘上に位置する。遺跡一帯は宅地化されおり、現在は確認できない。	縄文土器	No 567
丹生川左岸の尾花沢Iに位置する。北に張り出す段丘を東西に空堀と土塁で認められる。	陶器	No 778
丹生川左岸の河岸段丘上に位置する。 範囲は東西210×南北220(m)。	土器 石器 土偶	No 237 昭和55年県教委による調査
丹生川左岸の段丘上に位置する。一帯は微高地となつており、現況は畑である。範囲は東西50×南北50(m)。		No 786
千手川右岸に位置し、範囲は南北50×東西20(m)である。	土師器	新規 試掘調査実施
千手川右岸に位置し、範囲は東西130×南北100(m)である。	剣片 須恵器	No 583
牛所野川右岸に位置し、範囲は東西50×南北100(m)である。	縄文土器 石器	No 2332 昭和53年に一部学術調査。
牛所野川右岸に接し、南北に延びる自然地形上に広がっている。範囲は、東西140×南北170(m)である。	晚唐の壺、甕等充彩土器 石器、石笛	No 743 試掘調査実施
丹生川左岸の尾花沢I面に位置する。 範囲は東西30×南北50(m)である。	石鏡・石鏡・剣片 (大槻誠氏採集)	No 2340
最上川左岸の神賀平野に立地。遺物の包蔵範囲は50m四方に及ぶ。	縄文土器 須恵器、あかやき土器、中世陶器、古鏡	新規 試掘調査実施
遺物の包蔵範囲は240×100(m)に及び、その西部には切りられた指跡となっている。	ナイフ形石器、搔器、剣片、 縄文土器	新庄市教委が三次にわたって発掘調査。
最上川の支流新田川左岸の河岸段丘上に立地。遺物の分布範囲は東西30×南北40m四方に及ぶ。	縄文土器・石器 土師器・須恵器 近世青磁器	No 881 試掘調査実施
大鳥川左岸段丘上に立地し、遺物を含め水田、畑地にかけて遺跡がひろがっている。	縄文土器(晚期)	No 1912 試掘調査実施

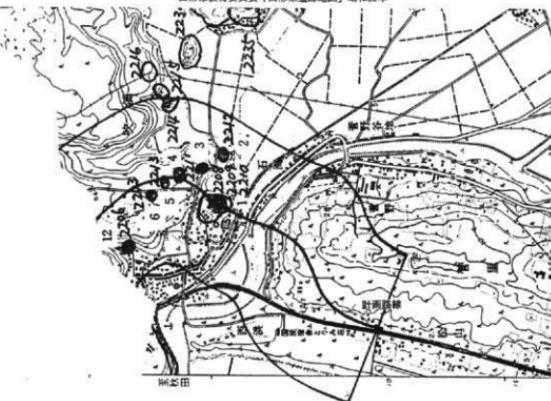
道路番号	種 別	遺 跡 名	所 在 地	時 期	地 目	立 地
37	集落跡	豊 原	酒田市大字豊原字芋田18	平安時代	水 田	平 地 (0.6km)
38	散布地	豊 原 A	酒田市大字豊原字柳田10ほか	平安時代	水 田	平 地 (0.1km)
39	集落跡	豊 原 B	酒田市大字豊原字堰向2ほか	平安時代	水 田	平 地 (0.2km)
40	集落跡	安 田	酒田市大字安田字芳岡31	中 世	水 田	平 地 (0.5km)
41	集落跡	北 田	酒田市大字開字北田6ほか	平安時代	水 田	平 地 (0.9km)
42	集落跡	岩 清 水	鶴岡市大字湯田川字岩清水91~92	義文時代	山 林 地	山 林 地 (0.6km)
43	散布地	堰 畑	遊佐町大字八日町字堰端31~32	平安時代	堰 畑 地	平 地 (1.3km)
44	城 駆	向 館	藤島町大字藤島字向館38-2	中 世	堰 畑 地	平 地 (1.5km)

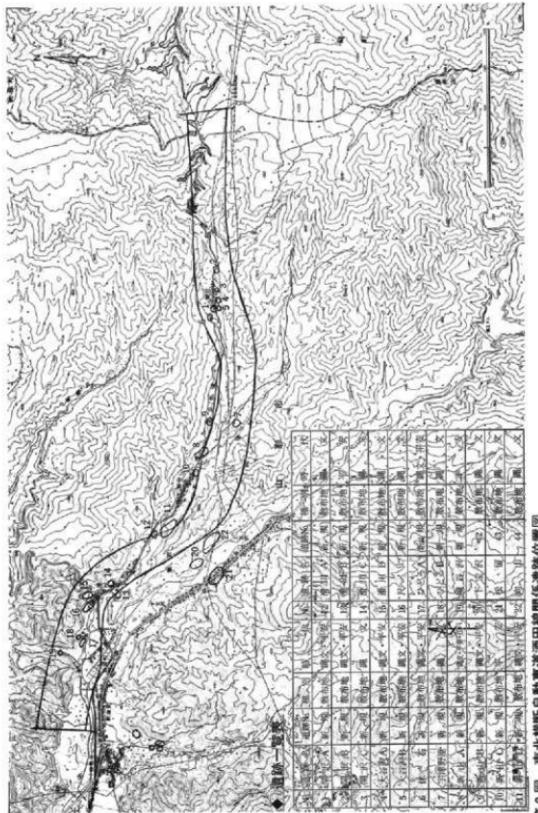


遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
城輪古道の西側約50mのところに位置する。総面積45,090m ² におよぶ。	須恵器 赤焼き土器	No2010
豊原部落内にあり、かつて柱根が出土したという。何らかの建物跡があったものと思われる。	赤焼き土器 柱根	新規
豊原部落の南側水田に延びる。試掘により土塙を検出した。総面積は15,000m ² である。	須恵器 赤焼き土器 馬鹿土器	新規 試掘調査実施
地蔵寺前落内にある。最近角柱が出土した事から中世の建物跡があったと思われる。	赤焼き土器 瓦	No2006 試掘調査実施
開部落の北にひろがる。遺跡内に舞鶴神社があり、平安時代の勅語を伝へる。	赤焼き土器	No2020
酒水の湧き出る台地上にあり、水田を開いた際、義文時代の土器片や石器が出土した。	網代土器 磨擦石斧	No1577
赤焼き土器と須恵器の散布がみられる。畠地から宅地帯に及び、総面積3,000m ² と推定される。	須恵器 赤焼き土器	No2176
藤島川をはさんで、藤島城に対している。藤島城の支城と思われ、「筆塗余堀」には諒路の記載がある。	未検出	No1713

注 千葉寺標記は、「山形県道路地図」に同じ

山形県教育委員会「山形県道路地図」昭和53年





-12-

III 試掘調査実施遺跡概要

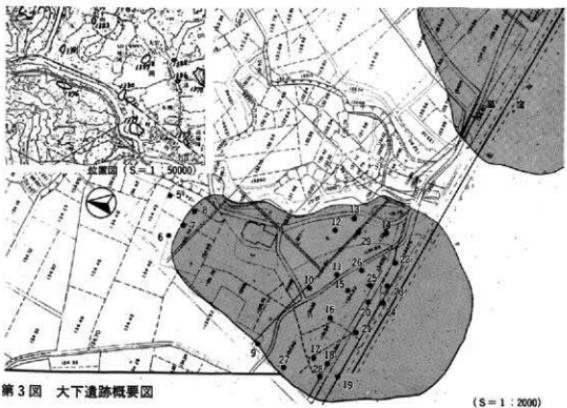
1 大下遺跡（遺跡番号1380）

所在地 山形県西置賜郡小国町大字増岡字大下・字風口

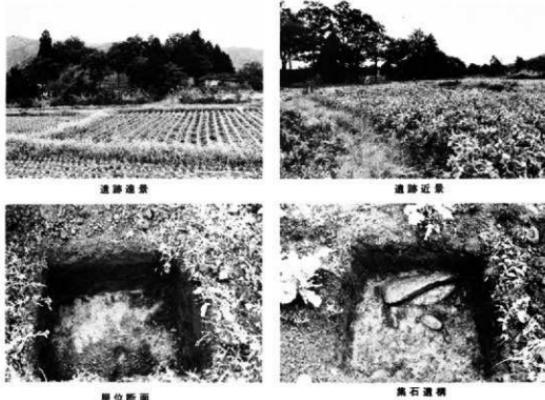
調査員 渋谷孝雄・佐藤正俊

調査期日 昭和55年10月20・21日

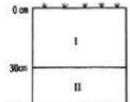
遺跡の概要 本遺跡は荒川とその支流横川の形成した段丘上に立地し、現在は畠地・杉林・宅地・鉄道用地として利用されており、畠地部分には多くの縄文土器片、石器片が散布している。今回の分布調査は、昭和56年度に予定されている県営闘場整備事業との調整に資するために実施された。その結果、遺跡の範囲は東西110m×南北155m、面積17,000m²で、地表下15~20cmに厚さ15~20cmの遺物包含層がみられ、地山までの深さは40~45cm、概して保存は良好であるとの結論を得た。試掘溝11では集石構造が確認され、また、縄文時代前期大木4式、同中期大木10式、同後期初頭の土器片や、石錐、石匙などの石器が出土し、縄文時代前期～後期の集落跡としての性格をもつものと考えられる。



-13-



図版1 大下遺跡



層位断面図

I 黒色土(表土)
II 黒褐色土(遺構堆积面)
III 黄褐色土(地山)



出土石器

2 墓塚遺跡（新規）

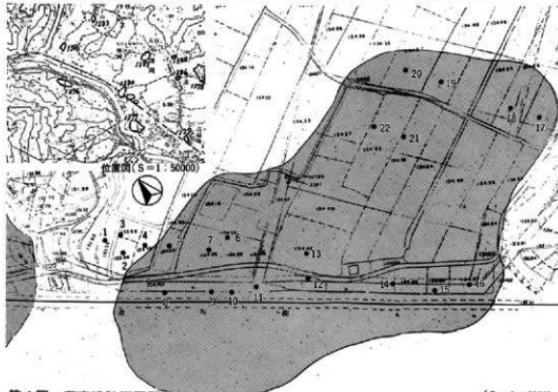
所在地 山形県西置賜郡小国町大字増岡字墓塚・字ソブ沢・字中野

調査員 渋谷孝雄・佐藤正俊

調査期日 昭和55年10月21日

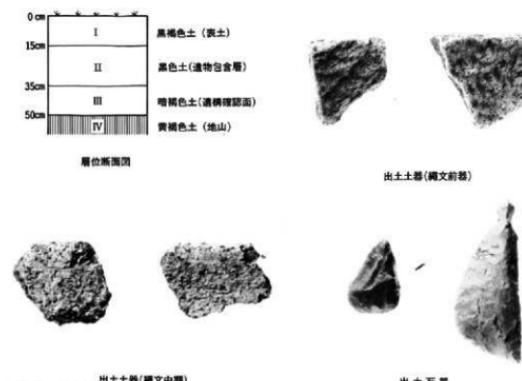
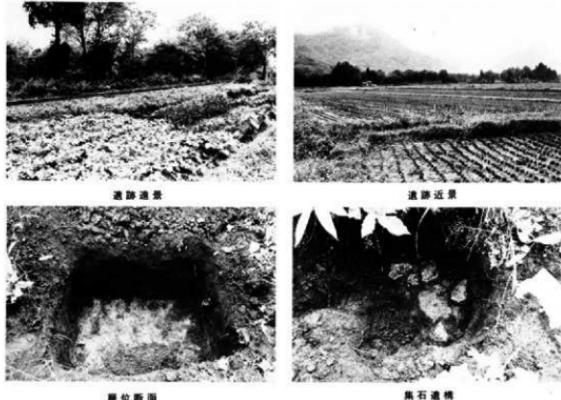
遺跡の概要 本遺跡は大下遺跡から小河川を隔てた東方約50mに位置し、大下遺跡と同じ段丘面に立地する。現在は水田、畑地、鉄道用地、雑木林となっており、畑地部分に若干の土器片、石器片の散布がみられる。今回の分布調査によって新たに発見された遺跡で、大下遺跡と同様、昭和56年度の県営圃場整備事業の予定地内に含まれている。

遺跡の範囲は東西250m×南北110m、面積約27,500m²で、東西は小河川によって、大下館分（今回新規登録）両遺跡の立地する台地と区切られ、段丘崖に近い南側が高く、北に向うにつれて徐々に低くなっている。地表下15~35cmに厚さ10~30cmの遺物包含層がみられ、地表から40~50cmで地山に達する。遺物は国鉄米坂線に近い試掘溝11~16で特に多く出土する傾向がみられ、保存状況は畑地、水田とともに良好である。試掘溝11で集石遺構が検出され、また、縄文時代前期の纖維を含む土器片、中期の大木9、10式の土器片や、石匙など石器類の人工遺物のほか、自然遺物（種子）が出土している。以上のことから、本遺跡は、縄文時代前期～中期にかけてのかなり大規模な集落跡と考えられる。



第4図 墓塚遺跡概要図

(S = 1 : 2000)



図版2 墓塚遺跡

-16-

3 三本木窯遺跡（遺跡番号 57）

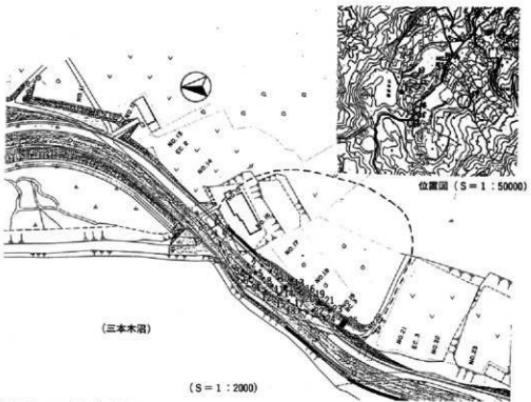
所在地 山形県山形市大字神尾字三本木

調査員 佐藤正俊・長橋至・中島寛

調査期日 昭和15年11月19日

遺跡の概要 本遺跡は、山形市街地の西藏王高原の一隅にあり、蔵王火山の泥流を基盤とする丘陵上に立地する。遺跡の東側には明治期において、この一帯の田畠の灌漑のためにきり開かれた三本木沼がある。現在は、畑地・果樹畠・一部宅地となっており、遺跡の南西側付近では、土師器片などの散布がみられる。昭和45年頃に、地元研究者によって一部発掘調査が実施され、平安時代の堅穴住居跡・窯跡が確認されている。今回の分布調査は、県立西藏王公園計画の一環として、昭和15年度に予定されている西藏王公園園路工事による道路整備事業との調整に資するため実施され、遺跡西側の道路施工区域に限られた。

その結果、遺跡の範囲は東西70m×南北100m、面積約7,000m²である。遺物包含層は、開墾時の耕作により破壊を受け認められず、15~90cmで地山までたっさる。遺構は、試掘溝14・25Gで、暗褐色土に炭化・焼土粒子の混る窯跡二基を確認する。出土遺物は、施工区域の中央より南側にかけて、平安時代の土器・須恵・赤焼土器片が多く出土している。



第5図 三本木窯遺跡概要図

-17-



遺跡近景



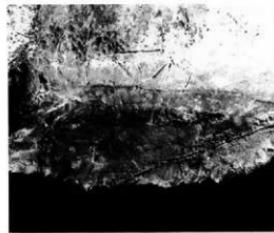
試掘状況



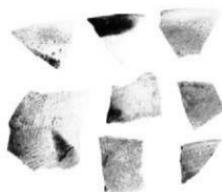
1号遺跡確認状況



2号遺跡確認状況



2号遺跡確認状況



出土遺物

図版3 三木木窯遺跡

4 塙田C遺跡（遺跡番号135）

所在地 山形県山形市長町字塙田

調査員 佐藤庄一・渋谷孝雄

調査期日 昭和55年10月30日

遺跡の概要 本遺跡は山形市見崎部落の東方、見崎浄水場のすぐ南側に位置する。最上川支流の白川が馬見ヶ崎川となって蛇行する両岸の自然堤防上には良好な小台地が形成され、多くの遺跡が立地するが本遺跡もその一つである。標高は約100mを計り、地目は現在桑畠・果樹園および野菜畠となっている。遺物はこの小台地の全域から表面採集できるが、とくに北側に多いようである。

昭和50年の東北横断自動車道酒田線関係遺跡の分布調査によって新しく発見された遺跡で翌年に一部試掘調査も実施している（註1）。遺跡の範囲は、東西120m×南北280m、面積約30,000m²で、このうち見崎部落に通じる農道の北側部分は今回の分布調査によって遺物の散布が見られたことにより追加された地域である。横断自動車道の予定路線は、遺跡の北側を、ほぼ東西方向につき抜ける。

昭和50年10月の試掘調査による遺跡の層序は、I層が耕作土、II層が暗褐色砂質土、III層が明褐色砂質土、IV層が黄褐色砂層となっている。II・III層が遺物包含層で、表土下約60cmでIV層の無遺物層に達する。遺物包含層の上面は桑の木などで一部擾乱されているが、下層は良好に保存されている。

出土した遺物には、土師器・須恵器・陶磁器などがある。土師器には环・甕などの器種があり、内面に黒色化処理を施したクロコ整形の环が特徴的である。須恵器には环・甕・壺などの器種があり、回転糸切り痕を持つ环の底部がある。塙田C遺跡の時期は、出土遺物から平安時代中頃と推定されるが、陶磁器からみて一部鎌倉時代まで下る可能性もある。

註1 山形県教育委員会1977 「分布調査報告書（4）」山形県埋蔵文化財調査報告書第12集



図版4 塙田C遺跡



遺跡遠景

遺跡近景



第6図 境田C遺跡概要図

-20-

5. 北田遺跡

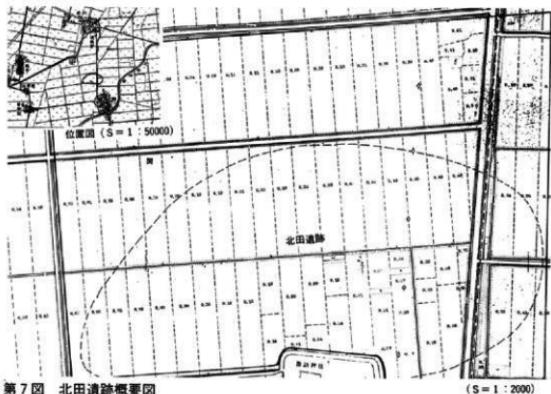
所在地 酒田市大字関字北田6ほか

調査員 川崎利夫・野尻 侃・安部 実

調査日 昭和55年11月5日

遺跡の概要 酒田市街より東6.3kmの水田中にあり、標高は10m前後である。関より境興野にいたる幹線農道をはさんで、東西両側に遺物散布がみられる。東側については、昭和55年度に調査を完了したが、西側については昭和56年度県営圃場整備事業区域内に入る。遺跡内に諫防神社があり、その200m北側に都波岐神社跡がある。これらを含む約9,000m²が遺跡の範囲と推定される。地表下20cm~35cmの暗青灰色土層に遺構が確認でき、須恵器、赤焼土器などがかなり多く出土する。

本遺跡より北2.2kmに城輪軸轂遺跡があり、これとほぼ同時期であることから、何らかの関連をもつ平安時代の集落跡である。この北に境興野、南に関Bなど、同じ平安時代の集落跡が並存している。



第7図 北田遺跡概要図

-21-



遺跡遺叢



図版5 北田遺跡

土器断面

6 安田遺跡

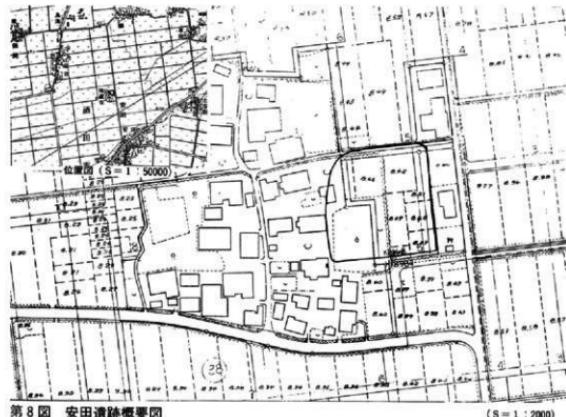
所在地 酒田市大字安田字芳岡31

調査員 川崎利夫・安部 実

調査期日 昭和55年10月22～23日

遺跡の概要 酒田市街の北東に位置する地蔵寺地内にある。本楯の南1.3km、城輪柵の西南1kmのところにあたる。道路の周辺について試掘調査を実施したが、遺跡は集落内にあり、50m×50mほどで比較的小規模である。かつて5寸角の柱根が7尺間隔で4本出土したといわれ、その1本は残っているが、面取りを施した角柱である。附近より赤焼土器片が少量出土している。

出土した角柱よりみて、中世の建物跡の存在が想定される。昭和56年度総合パイロット施工区域にふくまれるので、発掘調査による記録保存が必要である。



第8図 安田遺跡概要図

(S = 1 : 2000)



遺跡遺跡



土層断面

図版6 安田遺跡

7 豊原B遺跡

所在地 酒田市大字豊原字畠向2ほか

調査員 昭和15年10月22~23日

調査期日 川崎利夫・安部 実

遺跡の概要 城輪柵外郭西門より約500m東側に位置し、豊原部落南の水田中に所在する。本遺跡の北には、豊原A遺跡、東側の部落入口には豊原遺跡があり、何れも平安時代の集落跡である。遺跡の範囲は、東西100m、南北150m、15,000m²ほどであることが試掘によつて確認されている。たまたまテストピット中より、直径2m、深さ1mの土壌が検出され、内部より須恵器片が発見された。遺構や遺物包含層は、地表下20~30cmで、須恵器、赤焼土器等が検出される。城輪柵に近い位置にあるので、それに密接に関連をもつ平安時代の集落跡である。56年度施工予定の総合パイロット事業区域内にふくまれるので、発掘調査による記録保存が必要である。

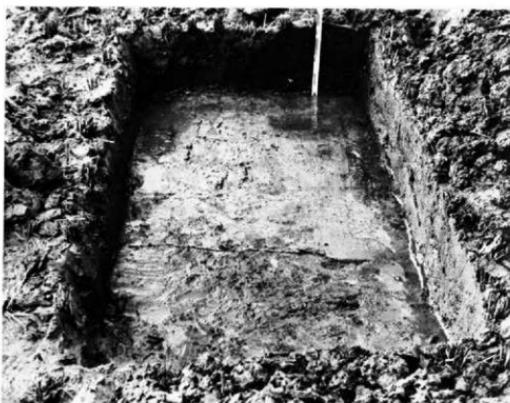


第9図 豊原B遺跡概要図

(S = 1:2000)



遺跡遠景



土層断面

図版7 豊原B遺跡

8 角沢仁間遺跡（新規）

所在地 山形県新庄市角沢字仁間

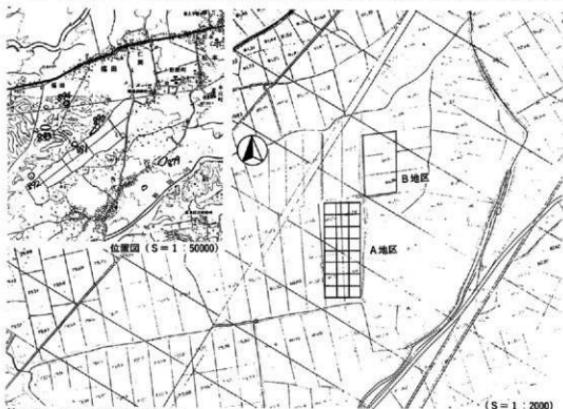
調査員 渋谷孝雄・阿部明彦

調査期日 昭和55年11月11日～同11月21日

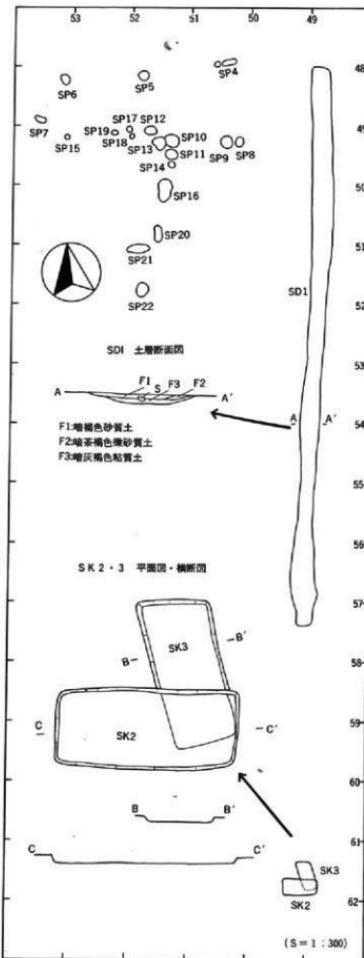
遺跡の概要 本遺跡は最上川の支流新田川右岸の沖積地に立地し、現河床からの比高は約2mをはかる。遺跡を含む一帯が昭和55年度刈入後からの県営圃場整備事業区内に入っていることから、坪掘りによる調査を待って対処することで合意し、10月6・7日に試掘調査を実施した。その結果、表土下部と直下に土器の細片が存在するものの、II層以下は有機質を含む谷地状堆積物となっており、遺構の検出も相当の困難を伴うものと判断し、工事前に再度詳細な分布調査を実施することにした。

調査は坪掘りで遺物の出土量の多かったA地区と、それより一段高いB地区を対象とし、重機で表土を剥いだ後、ジョレンによる面精査で遺構を検出す方法で実施した。B地区は遺物の出土もほとんどなく、中心部から外れていると判断し、A地区に集中して調査を行った。その結果、平安～鎌倉時代の土器を含む溝1本と、浅い落込みを18基、さらに同一面上で縄文時代晩期の土壙2基を検出した（第11図）。

S D 1は0.6～1mの幅をもち、長さ約28mに渡って確認された。覆土は3つの層からな



第10図 角沢仁間遺跡概要図



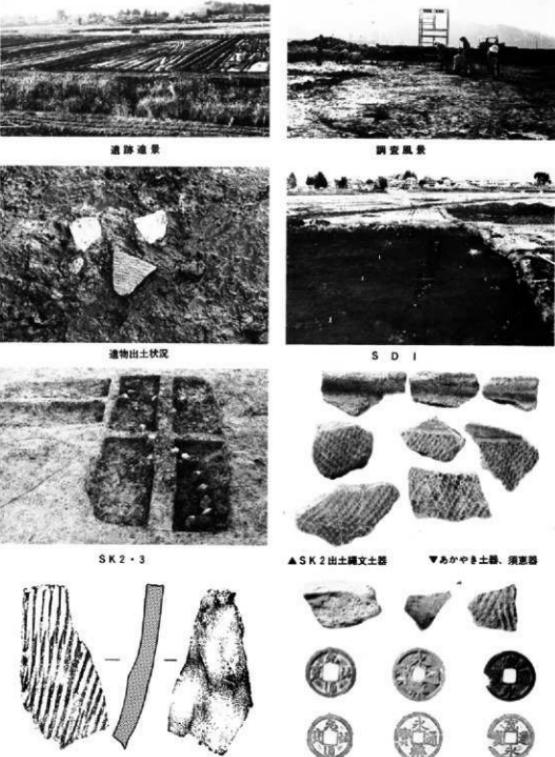
り中に須恵器、あかやき土器、須恵器系中世陶器の破片が含まれている。S P 4 ~ 22は、いずれも不整円形、楕円形で、浅く、覆土は S P 12に焼土粒が含まれるほかは、すべて暗褐色微砂土の單一層である。この中にも、須恵器等の土器の碎片が混在しており、溝と同様その所属時期は鎌倉から現代までの長い時間幅の中で考える必要がある。

S K 2、3はA区西部で検出され、S K 2が3を切っている。長方形のプランで、大きさは前者で $1.8 \times 0.8m$ 、後者は $1.5 \times 0.7m$ で、深さは両方とも約6cmと浅く、底部だけかろうじて残っていたものと考えられる。覆土はいずれも單一層で、S K 2の底面からやや浮いた状態で縄文時代晩期大洞A式の同一個体の土器片が出土した。

今回の調査では平箱2個分の遺物が出土し、上記遺物の他、古銭4枚がある。内訳は、「元祐通寶」1、「永楽通寶」1、「寛永通寶」2である。

第11図 角沢仁間遺跡構
平面・断面図

(5 = 1 : 300)



図版8 角沢仁間遺跡

中世陶器系影

古銭

9 宮野遺跡(遺跡番号881)

所在地 山形県新庄市本合海字鶴巻

調査員 佐藤庄一・長橋至

調査期日 昭和55年11月20~11月28日

遺跡の概要 宮野遺跡は最上川の支流新田川北岸の河岸段丘上に立地する遺跡で、昭和56年度以降県宮園場整備事業が予定されているため、今回分布調査を実施したものである。

遺物の分布範囲は薬師神社のある小高い丘を北端にして250m四方に及ぶが、調査は昭和56年度に圓場整備が実施される遺跡の西端約3,000m²を対象に行なった。

調査の結果、440m²の発掘区から繩文時代晚期の土壙3基、平安時代の堅穴住居跡1棟、江戸時代の掘立柱建物跡1棟および井戸跡2基などの遺構が検出された(第12図)。

S K 3~5は、直径約1.3m、深さ30~70cmを測る円形の土壙で、覆土の上部に1~2個体の埋納土器を有する(図版10)。人骨等は検出できなかったが、覆土の状態等からみて墓壙の可能性をもつ。時期は出土土器から繩文時代晚期大洞C₁式期にあたるものである。そのほかSK 2・48等も覆土や出土遺物からみて繩文時代晚期のものと思われる。

S T 1は、南北径4.0m、東西検出径2.2mを測る方形の堅穴住居跡で東半分が発掘区外のため未調査である。住居跡内に柱穴2個、住居跡外南西隅に柱穴が1個あるが、カマドは認められなかった。住居跡の覆土1・2層およびEP39内から土師器・赤焼土器・須恵器が出土している。土師器には内面に黒色化処理されている高台付灰、赤焼灰土器には灰・小形甕・叩き成形をもつ丸底の大形甕、須恵器には壺・甕などの器種がある。時期的には平安時代中期10世紀後半から11世紀前半頃と推定される。

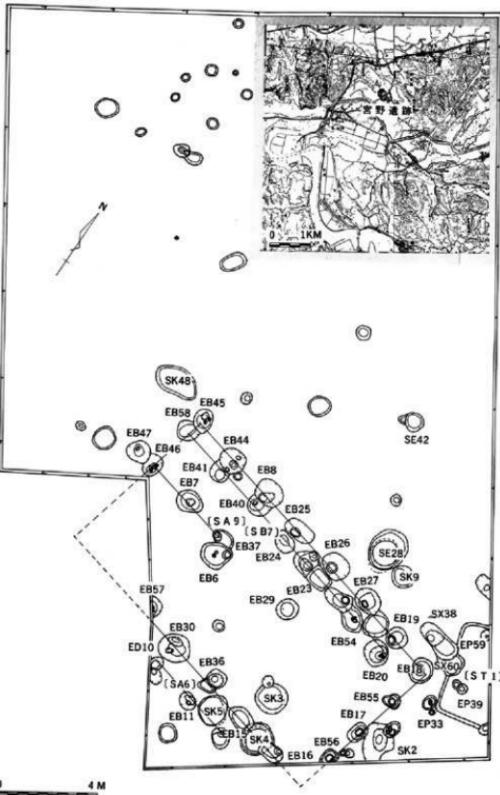
S B 8は、桁行7間(柱間1.95m等間)、梁行4間(柱間170cm等間)の東西に長い掘立柱建物跡と推定されるが南西部が未検出である。S B 7の掘り方を切って作られており、S B 7の柱列がS A 6と組合ってS B 8より1時期古い建物跡となることも考えられる。時期はEB 8・44の掘り方覆土から陶磁器が出土して江戸時代末頃のものと推定される。

S E 28・42は、直徑0.7~1.0m、深さ約2mの円形を呈す素掘りの井戸跡で、出土遺物から江戸時代末頃の時期が推定される。



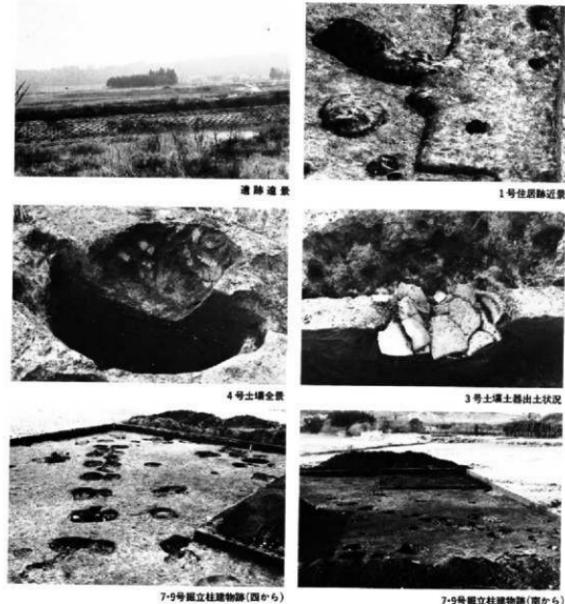
図版9 3号土壙出土洗鉢形土器

-30-



第12図 宮野遺跡位置図・遺構平面図

-31-



図版10 宮野遺跡

-32-

IV まとめ

東北横断自動車道酒田線関係では、路線予定期間の表面採集を主とした調査を行った結果、山形市閻沢～同駅迎堂までの区間に22遺跡が確認され、そのうち19遺跡が新規発見遺跡である。これより先、昭和50年に実施した山形市滑川～寒河江市高屋までの区間に行った第1次の調査結果と合せると、関連する遺跡総数が76、新規発見遺跡が39となる。このうち、山形市にひらく寺遺跡、同上原古墳、同塚田A遺跡、同B遺跡、中山町物見台遺跡の計5遺跡について、昭和51年度に試掘調査を実施している。(註1)

吹浦バイパス関係では、遊佐町松山～同女鹿間約5.7kmを、予定期間を中心にして東西各1km幅で調査を行った。調査の結果、19の遺跡を確認し、そのうち新規発見の遺跡が6遺跡である。

農林関係他各種事業関係では、県下18市町村にわたり49遺跡が対象となった。調査は方法上、3段階に分けて行い、分布調査Iでは43遺跡、分布調査IIでは19遺跡、分布調査IIIでは、新庄市角沢仁間遺跡・同宮野遺跡の2遺跡が各対象となった。

全体として昭和56年度事業地区外の遺跡が73、立て合等調査の必要な遺跡が5遺跡、昭和56年度緊急発堀調査の必要な遺跡が、飯豊町町下遺跡他19遺跡である。

註1 山形県教育委員会1977「分布調査報告書(4)」山形県埋文化財報告書第12集



山形県埋蔵文化財調査報告書第45集

分布調査報告書(8)

東北横断自動車道酒田線関係遺跡

国道7号線吹浦バイパス関係遺跡

昭和56年度農林事業他関係遺跡

昭和56年3月28日 印刷

昭和56年3月31日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 緑大風印刷

山形市あこや町1丁目4番3号